

# 子どもたちに 音楽の楽しさを伝えたい

佐々木 七星さん (一屋町)



3月に開催された日本ジュニア管打楽器コンクールのユーフォニアムの部で銀賞、全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテストで優秀賞を受賞した佐々木七星さん。大学受験と時期が重なる中での挑戦でしたが、「高校生活最後に結果を残したい」と参加を決意し、優秀な成績を収めます。早い指の動きから生まれる音をいかに美しく伝えるかを意識して演奏した佐々木さんは「コンクールではユーフォニアムを演奏する人なら誰もが憧れるユーフォニアム奏者に演奏を聴いてもらい、銀賞を受賞できたこと、コンテストでは全ての管打楽器の中から東海地区代表として出場できたことがうれしかったです」と振り返ります。

佐々木さんは、小学4年生のときに金管バンドの先輩が演奏する姿に憧れて、ユーフォニアムを始めます。演奏することが楽しく、中学進学後も吹奏楽部に入部した佐々木さんですが、高校は美術の道へと進むようになっていました。しかし、中学生のときに出場したコンテストの審査員をしていた先生からスカウトを受け、「先生と一緒に全国大会に行ってみよう」と、その先生が顧問を務める日本福祉大学付属高等学校の吹奏楽部に入部します。全国大会を目指して入部したものの、当時の先輩はたったの9人。吹奏楽の定員は55人で、1年生20人を含めても半分

の人数しかいませんでした。「最初は驚きましたし、不安にもなりました。けれど、諦めずにみんなで力を合わせた結果、3年生のときに全国大会に出場することができました」と諦めなければ、気持ちとやり方次第で可能性は広がることを学びます。そして、高校生から部活以外でも本格的な個人レッスンを受け始め、さらなる実力をつけた佐々木さんは「大学でも音楽を学びたい」と名古屋音楽大学へ特待生として進学します。

聴く人が幸せになれる音を意識して、毎日5時間の練習に励む佐々木さん。ユーフォニアムの魅力について「吹奏楽では木管と金管をつなぐ架け橋のような役割をしますが、ソロでは柔らかい音に加えて突き抜けるような高音も使い、聴く人を引き付けます」と笑顔で話します。今後については「もっと勉強して、演奏活動に力を入れていきたいです。そして将来は、子どもたちにユーフォニアムや音楽の楽しさを伝える指導者になりたい」と目を輝かせます。「指導してくれた先生のおかげで今の自分がある」と話す佐々木さん。自身の技術を高めるとともに、将来の夢に向かって努力を惜しみません。



▲全国大会で演奏する佐々木さん(右)

## cover

今号の表紙は、市出身の漫画家・竹内文香さんに描いていただきました。特集「知っていますか? 地域の身近な相談相手」では、民生委員について竹内さんの描く漫画で、誰にでも分かりやすく紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

